



2026年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年10月27日

上場会社名 山崎製パン株式会社
コード番号 2212 URL <https://www.yamazakipan.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
(氏名) 飯島 延浩
(氏名) 会田 正久
TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第3四半期の連結業績(2026年1月1日～2026年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第3四半期	1,011,499	4.5	47,218	5.6	49,888	7.7	31,872	7.2
2025年12月期第3四半期	968,100	5.3	44,718	15.3	46,317	12.2	29,725	10.9

(注) 包括利益 2026年12月期第3四半期 38,119百万円 (14.1%) 2025年12月期第3四半期 33,422百万円 (15.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第3四半期	161.76	—
2025年12月期第3四半期	150.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第3四半期	924,671	533,902	52.0
2025年12月期	931,878	510,828	49.3

(参考) 自己資本 2026年12月期第3四半期 481,127百万円 2025年12月期 459,881百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	—	—	60.00	60.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	—	—	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,338,000	2.0	64,000	4.7	67,000	4.2	42,500	3.9	215.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年12月期3Q	220,282,860 株	2025年12月期	220,282,860 株
-------------	---------------	-----------	---------------

② 期末自己株式数

2026年12月期3Q	23,378,296 株	2025年12月期	22,728,150 株
-------------	--------------	-----------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年12月期3Q	197,034,754 株	2025年12月期3Q	197,820,172 株
-------------	---------------	-------------	---------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
3. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2026年1月1日～2026年9月30日）におけるわが国経済は、堅調な企業収益を背景に所得環境の改善や政府の経済対策の効果もあり、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、油脂や包材等の原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費等の上昇もあり、厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストア業界におきましては、ドラッグストアや小型スーパー等の他業態との競争激化や人件費等のコスト上昇もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にありまして、当社グループは、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、業績向上をはかりました。食パン、菓子パン及び和洋菓子製品等に新規技術を活用した品質改善を積極的に行うとともに、2極化・3極化戦略によって低価格製品を充実する一方で、女性製品開発担当者を中心に付加価値を付けた製品開発に取り組むなど、変化するお客様の求めに応じた隙のない製品対応をはかりました。また、本年7月1日出荷分から一部の食パン、菓子パン及び和洋菓子製品の価格改定を実施しましたが、各部門毎に施策・戦略を推進して、各部門においてヤマザキの技術を活用した品質向上をはかるなど準備を丁寧に進めたこともあり、販売数量を確保いたしました。

また、当社は労働安全衛生管理体制の充実強化を推進し、労働安全衛生推進基本会議を毎月開催して、経営陣、本社各部・各工場が一体となって、労働安全衛生に関する問題課題の解決に取り組むとともに、従業員と管理・監督職による2本立ての労働安全衛生管理体制の充実強化をはかり、業績向上対策とともに働く職場の安全安心の実現をめざしました。

デイリーヤマザキやフレッシュベーカリーの小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにおいて日次管理・週次管理・時間管理の経営手法により問題課題を正確に把握して原因を追究し対応策を推進するなど、日々の仕事の精度向上をはかるとともに、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携して、新規技術を活用し、女性製品開発担当者の感性を活かした競争力のある商品開発に取り組むなど、業績改善をめざしました。さらに、デイリーヤマザキにつきましては、本年7月に商品本部の体制整備を行い、商品本部と運営部が一体となって、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始するとともに、変化するお客様の求めに対応した商品開発に取り組み、これに山崎製パン(株)の営業・生産が一体となって協力する体制といたしました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は1兆114億99百万円（対前年同期比104.5%）、営業利益は472億18百万円（対前年同期比105.6%）、経常利益は498億88百万円（対前年同期比107.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は318億72百万円（対前年同期比107.2%）となりました。ヤマザキの技術を活用した品質改善の推進や価格改定の寄与に加え、各工場における管理職の5S活動による内部管理の充実もあり山崎製パン(株)単体の業績が順調に推移するとともに、連結子会社の業績改善もあり、増収増益となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

①食パン部門（売上高936億75百万円、対前年同期比104.1%）

食パンは、1月に新規技術を活用し品質向上をはかった主力の「ロイヤルブレッド」が伸長するとともに、チェーンオリジナル対応を含む低価格食パンが大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。

②菓子パン部門（売上高3,804億30百万円、対前年同期比105.8%）

菓子パンは、「コッペパン」などの主力菓子パンや「アップルパイ」、「ずっしりデニッシュ」シリーズなどのペストリーが伸長するとともに、主力の「まるごとソーセージ」などの惣菜パンや「フレンチクルーラー」などの高品質・高付加価値のチルドパンが大きく伸長しました。さらに、(株)YKベーキングカンパニーをはじめヤマザキの技術を積極的に活用した製品が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

③和菓子部門（売上高630億11百万円、対前年同期比107.9%）

和菓子は、主力の串団子や大福が好調に推移するとともに、品質向上をはかった主力の「北海道チーズ蒸しケーキ」や値ごろ感のある「やまざき蒸しパン」が大きく伸長し、前年同期の売上を上回りました。

④洋菓子部門（売上高1,212億3百万円、対前年同期比104.2%）

洋菓子は、品質向上をはかった2個入り生ケーキが好調に推移し、「イチゴスペシャル」などのスペシャルシリーズや新規技術を活用してクリームの高品質向上をはかった「ダブルロール」が伸長するとともに、コンビニエンスストア向け製品が順調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高1,316億61百万円、対前年同期比99.6%）

調理パン・米飯類は、第1四半期においては主要取引先であるコンビニエンスストアチェーンとの取引が増加し大きく伸長しましたが、第2四半期以降、前期の需要急増の反動や、おにぎりなど米飯類の売上の伸び悩みもあり、前年同期の売上を下回りました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高1,495億53百万円、対前年同期比106.3%）

製菓・米菓・その他商品類は、ヤマザキビスケット(株)の「エアリアル」や(株)東ハトの「ポテコ」等のスナック製品が伸長し、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は9,395億35百万円（対前年同期比104.7%）、営業利益は458億34百万円（対前年同期比108.1%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、商品本部と運営部が一体となってオリジナル商品の開発に取り組むとともに、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、「バター餅」など新規技術を活用したデイリーホットベーカリーの商品開発を推進するなど、お客様に喜ばれるヤマザキ独自のコンビニエンスストアチェーンをめざしました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトの取組みを通じ、デイリーホットを中心に品揃えの徹底をはかるとともに、売り場づくりや店舗改装によりヤマザキらしい店づくりに取り組むなど、個店の競争力向上をはかりました。

以上の結果、流通事業の売上高は596億29百万円（対前年同期比100.2%）となりましたものの、人件費等のコスト上昇もあり営業損失は15億31百万円（前年同期は3億78百万円の営業損失）となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は123億34百万円（対前年同期比107.9%）、営業利益は26億7百万円（対前年同期比109.6%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は9,246億71百万円で、前連結会計年度末に対して72億7百万円減少しました。流動資産は3,458億96百万円で、売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に対して195億74百万円減少しました。固定資産は5,787億75百万円で、投資有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に対して123億67百万円増加しました。負債合計は3,907億68百万円で、支払手形及び買掛金などの支払債務の減少や借入金の返済などにより、前連結会計年度末に対して302億81百万円減少しました。純資産は5,339億2百万円で、利益剰余金やその他有価証券評価差額金の増加などにより、前連結会計年度末に対して230億74百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は52.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、所得環境の改善が進み、政府の経済対策の効果もあって、個人消費は持ち直していくことが期待されますが、中東情勢の影響が懸念され、景気の先行きは予断を許しません。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、主原料である油脂や包材等の原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費、光熱水費の上昇が予測され、厳しい経営環境になるものと思われます。

このような状況下にあります、当社グループは引き続き、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、ヤマザキの技術を活用した品質向上に取り組むとともに、2極化・3極化戦略によって変化するお客様の求めに応じた隙のない製品対応を推進し、業績向上をはかってまいります。

当社は、次期、主原料の小麦粉に加え、油脂やフィリング類等の原材料価格が大幅に上昇するとともに人件費や物流費等の上昇が見込まれることを勘案し、2027年1月1日出荷分から、一部の食パン、菓子パン及び和洋菓子製品の価格改定を実施する予定です。価格改定にあたっては、ヤマザキの技術を活用した品質向上とともに、2極化・3極化戦略によって、お客様の求めに合った製品対応を推進するなど、丁寧に対応してまいります。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、商品本部と運営部が一体となって、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始し、変化するお客様の求めに対応したデイリーヤマザキのオリジナル商品の開発に、山崎製パン(株)の営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略と連動させ、ヤマザキの総力を挙げて取り組み、業績改善をはかってまいります。

なお、現時点における通期の連結業績予想につきましては、当第4四半期に入り、山崎製パン(株)単体の業績は順調に推移しておりますが、主要連結子会社の業績の動向を見極めるため、2026年2月12日に公表した通期の業績予想及び配当予想を変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	163,820	169,248
受取手形	6	4
売掛金	149,734	117,569
商品及び製品	16,023	18,901
仕掛品	1,046	1,689
原材料及び貯蔵品	18,107	21,581
その他	16,961	17,130
貸倒引当金	△230	△230
流動資産合計	365,470	345,896
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	453,738	459,978
減価償却累計額	△333,092	△339,024
建物及び構築物（純額）	120,645	120,953
機械装置及び運搬具	616,504	626,334
減価償却累計額	△514,789	△526,253
機械装置及び運搬具（純額）	101,714	100,080
工具、器具及び備品	46,868	48,082
減価償却累計額	△37,944	△38,837
工具、器具及び備品（純額）	8,924	9,244
土地	127,207	127,813
リース資産	24,558	25,721
減価償却累計額	△16,466	△17,342
リース資産（純額）	8,091	8,378
建設仮勘定	4,981	9,901
有形固定資産合計	371,564	376,373
無形固定資産		
のれん	5,723	5,125
その他	12,389	12,816
無形固定資産合計	18,112	17,941
投資その他の資産		
投資有価証券	85,913	92,290
長期貸付金	581	472
退職給付に係る資産	53,686	56,425
繰延税金資産	9,225	8,525
その他	29,091	28,517
貸倒引当金	△1,768	△1,770
投資その他の資産合計	176,730	184,460
固定資産合計	566,407	578,775
資産合計	931,878	924,671

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	94,426	79,979
短期借入金	56,129	53,319
リース債務	3,421	3,908
未払法人税等	11,855	6,179
未払費用	44,276	39,598
賞与引当金	6,661	18,123
資産除去債務	58	53
その他	57,327	46,079
流動負債合計	274,156	247,241
固定負債		
長期借入金	39,303	32,907
リース債務	4,807	5,549
役員退職慰労引当金	6,131	6,337
退職給付に係る負債	69,303	70,745
資産除去債務	4,892	4,866
その他	22,453	23,120
固定負債合計	146,893	143,526
負債合計	421,050	390,768
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,691	9,266
利益剰余金	406,573	426,427
自己株式	△55,517	△57,742
株主資本合計	371,761	388,965
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,557	45,531
繰延ヘッジ損益	1	△0
土地再評価差額金	88	88
為替換算調整勘定	6,681	9,230
退職給付に係る調整累計額	39,789	37,311
その他の包括利益累計額合計	88,119	92,162
非支配株主持分	50,947	52,775
純資産合計	510,828	533,902
負債純資産合計	931,878	924,671

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年9月30日)
売上高	968,100	1,011,499
売上原価	651,096	679,931
売上総利益	317,003	331,568
販売費及び一般管理費	272,285	284,349
営業利益	44,718	47,218
営業外収益		
受取利息	455	608
受取配当金	1,157	1,179
固定資産賃貸収入	723	708
持分法による投資利益	790	493
為替差益	-	38
雑収入	918	1,509
営業外収益合計	4,045	4,537
営業外費用		
支払利息	1,067	1,327
固定資産賃貸費用	206	183
為替差損	599	-
雑損失	573	357
営業外費用合計	2,446	1,867
経常利益	46,317	49,888
特別利益		
固定資産売却益	126	146
投資有価証券売却益	35	55
関係会社株式売却益	282	-
その他	122	-
特別利益合計	566	202
特別損失		
固定資産除売却損	1,303	1,427
減損損失	263	285
その他	330	383
特別損失合計	1,897	2,096
税金等調整前四半期純利益	44,986	47,994
法人税等	13,661	14,703
四半期純利益	31,324	33,291
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,599	1,419
親会社株主に帰属する四半期純利益	29,725	31,872

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年9月30日)
四半期純利益	31,324	33,291
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,351	3,974
為替換算調整勘定	575	3,427
退職給付に係る調整額	△1,810	△2,605
持分法適用会社に対する持分相当額	△17	31
その他の包括利益合計	2,098	4,828
四半期包括利益	33,422	38,119
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,075	35,915
非支配株主に係る四半期包括利益	1,347	2,204

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	89,991	—	—	89,991	—	89,991
菓子パン	359,472	—	—	359,472	—	359,472
和菓子	58,380	—	—	58,380	—	58,380
洋菓子	116,352	—	—	116,352	—	116,352
調理パン・米飯類	132,220	—	—	132,220	—	132,220
製菓・米菓・その他商品類	140,752	—	—	140,752	—	140,752
その他	—	59,497	11,278	70,776	—	70,776
顧客との契約から生じる収益	897,169	59,497	11,278	967,945	—	967,945
その他の収益	—	—	154	154	—	154
外部顧客への売上高	897,169	59,497	11,433	968,100	—	968,100
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,936	6,994	36,368	55,298	△55,298	—
計	909,105	66,491	47,801	1,023,398	△55,298	968,100
セグメント利益又は損失(△)	42,409	△378	2,379	44,410	307	44,718

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 307 百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	93,675	—	—	93,675	—	93,675
菓子パン	380,430	—	—	380,430	—	380,430
和菓子	63,011	—	—	63,011	—	63,011
洋菓子	121,203	—	—	121,203	—	121,203
調理パン・米飯類	131,661	—	—	131,661	—	131,661
製菓・米菓・その他商品類	149,553	—	—	149,553	—	149,553
その他	—	59,629	12,142	71,772	—	71,772
顧客との契約から生じる収益	939,535	59,629	12,142	1,011,307	—	1,011,307
その他の収益	—	—	191	191	—	191
外部顧客への売上高	939,535	59,629	12,334	1,011,499	—	1,011,499
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,861	6,418	38,504	56,784	△56,784	—
計	951,396	66,048	50,838	1,068,283	△56,784	1,011,499
セグメント利益又は損失(△)	45,834	△1,531	2,607	46,910	307	47,218

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 307 百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年2月25日開催の取締役会決議に基づき、自己株式649,800株の取得を行っております。この結果等により、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が2,225百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が57,742百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年9月30日)
減価償却費	31,730百万円	33,760百万円
のれんの償却額	1,230百万円	1,012百万円

3. 補足情報

(1)連結販売実績

(単位:百万円)

セグメント名称	区 分	前第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年9月30日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	89,991	9.3%	93,675	9.3%	3,683	104.1%
	菓 子 パ ン	359,472	37.1	380,430	37.6	20,958	105.8
	和 菓 子	58,380	6.0	63,011	6.2	4,631	107.9
	洋 菓 子	116,352	12.0	121,203	12.0	4,850	104.2
	調理パン・米飯類	132,220	13.7	131,661	13.0	△ 559	99.6
	製菓・米菓・その他商品類	140,752	14.6	149,553	14.8	8,801	106.3
	食 品 事 業 計	897,169	92.7	939,535	92.9	42,366	104.7
流 通 事 業		59,497	6.1	59,629	5.9	132	100.2
そ の 他 事 業		11,433	1.2	12,334	1.2	900	107.9
合 計		968,100	100.0	1,011,499	100.0	43,399	104.5

(2)主要子会社実績

(単位:百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	2025年 第3四半期	2026年 第3四半期	増 減 額	増減率	2025年 第3四半期	2026年 第3四半期	増 減 額	増減率
(株)不二家〈連結〉	83,968	87,659	3,690	4.4%	1,069	△ 113	△1,182	—%
(株)サンデリカ	89,185	89,339	153	0.2	3,412	3,143	△ 269	△7.9
(株)YKベーキングカンパニー〈連結〉	29,456	31,264	1,808	6.1	616	1,110	494	80.3
ヤマザキビスケット(株)	26,769	28,448	1,679	6.3	2,500	2,670	169	6.8
(株)東ハト	22,543	24,489	1,946	8.6	1,307	1,379	72	5.5
(株)ヴィ・ド・フランス	21,905	22,566	660	3.0	960	1,154	194	20.2

(3)2026年12月期第3四半期の単体業績 (2026年1月1日～2026年9月30日)

①単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四 半 期 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第3四半期	687,292	3.9	29,764	6.9	33,417	9.6	22,133	5.4
2025年12月期第3四半期	661,574	4.1	27,830	5.9	30,483	3.9	20,996	1.2

②単体財政状態

	総 資 産	純 資 産
	百万円	百万円
2026年12月期第3四半期	585,291	356,379
2025年12月期	598,007	344,259

(4)単体販売実績

(単位：百万円)

期 別 品 種 別	前第3四半期 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)		当第3四半期 (自 2026年1月1日 至 2026年9月30日)		比 較 増 減	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食 パ ン	82,859	12.5%	85,548	12.5%	2,688	103.2%
菓 子 パ ン	302,072	45.7	315,629	45.9	13,557	104.5
和 菓 子	57,200	8.6	61,172	8.9	3,971	106.9
洋 菓 子	87,166	13.2	92,396	13.4	5,230	106.0
調理パン・米飯類	46,858	7.1	46,211	6.7	△ 647	98.6
製菓・米菓・その他商品類	39,119	5.9	39,952	5.8	832	102.1
小 計	615,277	93.0	640,911	93.2	25,633	104.2
デイリーヤマザキ事業	62,312	9.4	62,412	9.1	100	100.2
内 部 消 去	△ 16,015	△ 2.4	△ 16,031	△ 2.3	△ 15	—
合 計	661,574	100.0	687,292	100.0	25,718	103.9

(5)単体営業利益増減の内訳

(単位：百万円)

	2025 年		2026 年		増減額	増減率 (%)
	第3四半期	%	第3四半期	%		
営業利益						
山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く)	28,180	4.6	31,240	4.9	3,060	10.9
デイリーヤマザキ事業	△ 349	△ 0.6	△ 1,476	△ 2.4	△ 1,126	—
合 計	27,830	4.2	29,764	4.3	1,933	6.9

<山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く) 増減内訳>

(単位：百万円)

	2025 年		2026 年		増減額	増減率 (%)	営業利益増減要因
	第3四半期	%	第3四半期	%			
売上総利益	190,673	31.0	201,586	31.5	10,912	5.7	売上高の増加 11,580 原材料費の減少 1,834 製造労務費の増加 ▲ 2,618 製造経費の増加 ▲ 417 製造償却費の増加 ▲ 384 その他 917
販売費及び一般管理費	162,493	26.4	170,346	26.6	7,852	4.8	人件費の増加 ▲ 3,000 経費の増加 ▲ 4,805 償却費の増加 ▲ 47

(注)「営業利益増減要因」欄で▲は営業利益のマイナス影響を表しています。

「%」欄は山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く) の売上高に対する比率を記載しています。